令和4年度

京都市子どもの読書活動優秀実践団体（者）表彰 被表彰団体（者）一覧

（敬称略・順不同）

【市長賞】 1個人2団体

○上岡 裕子

京都市立御所南小学校において、平成14年より長年にわたり、子どもたちの発達段階に合わせた本の読み聞かせやブックトークを全学級で実施いただいております。その卓越した読み聞かせの技術は、子どもたちを本の世界に引き込み、同校において自発的に読書に取り組む児童の増加に繋がっています。また、長年のボランティア経験と、その活動を通して得た知識を活かし、PTA図書館ボランティアの育成や活動のアドバイス、図書館の充実のための図書選定への助言などをいただいております。

○京都市立紫竹小学校

国語科を研究教科として、児童の「読む力」の育成に力を注ぎ、国語科や総合的な学習の時間に図書を活用した授業づくりを行う等、学校全体で読書活動に取り組んでおられます。また、学校司書と連携して児童の読書傾向を分析し、学校図書館の分類比率等も考慮しながら、配架本を揃える等、児童が読書に親しみやすい環境を構築することで、図書の貸出冊数や「100冊読書」の達成率を大きく向上させる等、顕著な成果を上げています。

○学校法人 仏教教育学園 華頂短期大学附属幼稚園

各保育室及び「絵本の部屋」に2000冊を超える絵本を配置し、担任の先生や大学生ボランティアによる読み聞かせ、学年の枠を越えた読み聞かせ等、様々な形で日々絵本に触れる機会を大切にする取組をされています。読書にちなんだオリジナルキャラクターの作成や、毎月の絵本便りの発行など、園児がさらに絵本に親しめるような仕掛けづくりや、親子で読書に親しみを持てるよう工夫を凝らした取組をされています。

【教育長賞】 6団体

○宇多野小学校図書館ボランティア

京都市立宇多野小学校において、子どもたちのために「いつでも開いている図書館」を目指して活動され、朝休みや放課後、学校司書が不在の日時に貸出業務に当たる等して、学校と連携した図書館運営体制を構築することで、子どもたちが、いつでも安心して学校図書館に行くことができ、本に親しみながら心豊かに成長していける環境を整えられています。

○ゆめのひきだし

京都市立椋野小学校において、児童の発達段階や実態に応じて本に親しませる取組を20年以上継続して実施され、また、地域においても児童館や町内会からの要請を受け、ゲストティーチャーとして大型紙芝居、絵本・パネルシアター等の読み聞かせを実施する等、学内外を問わず精力的に活動いただいています。

○京都市鏡山保育所

山科図書館と連携して乳幼児とその保護者を対象にした「赤ちゃんの会」を開催し、絵本の読み聞かせ等を実施されています。保育士としての経験を活かし、乳幼児に人気のある絵本を選び、手遊びを交えることで、読み聞かせに集中できる環境を作る等、保護者と赤ちゃんが本に触れるきっかけづくりをされています。

○京都市立京極幼稚園

外国籍の子どもが多いという園の特色を活かし、読み聞かせの実践の中で、日本語・中国語・広東語・インドネシア語等の子どもたちの母語を扱い、読書活動を基軸とした発展的な学習に取り組まれています。さらに読書をきっかけに異文化への理解を深め、多文化に触れ親しみを感じる心の醸成に取り組まれています。

○京都市立烏丸中学校

学校図書館の役割を「読書センター機能」「学習センター機能」「情報センター機能」の3つの側面から捉え、それぞれの機能充実に向けた取組をされています。学校司書と連携して、生徒が読書に興味関心を持ち、手を伸ばせば本がある環境の構築に取り組まれているほか、授業での学校図書館利用や、タブレットを併用した図書館資料の活用にも力を入れておられます。

○学校法人二葉学園 幼保連携型認定こども園 ふたば幼稚園

各保育室に絵本棚を設置して子どもたちの興味に合わせた図書を配備する等、園児自ら絵本に触れる時間を大切にしておられます。また、子どもたちが描いた絵を用いて絵本を作り、子どもたちと想像の世界を共有する等、造形活動と読書活動を融合させて子どもたちと絵本との距離を縮める活動に取り組まれています。